

決意をあらたに

仙北市消防出初式



1月10日、仙北市消防出初式が仙北市民会館で開催され、団員や関係者などおよそ240人が参加しました。

式典に先立ち、市民会館前の駐車場で観閲式が行われたほか、団員210人が力強く分列行進しました。

復興の道をともに歩んでまいります。また、昨年は市内で11件の火災が発生しました。地震や台風、線状降水管による大雨など自然災害が常態化する中、地域に根差した消防団の存在は、今後ますます重要となります。市では引き続き装備の充実など支援を進め、消防団の活動をしっかりと支えてまいります」と式辞を述べました。

式典で田口知明市長は「昨年8月の豪雨災害では、松木内川の氾濫により、上松木内地区へ警戒レベル5の緊急安全確保を発令する事態となりました。人的被害はありませんでしたが、床上浸水17棟、床下浸水19棟、農地や農業用施設、農作物など、約23億5000万円に及ぶ甚大な被害が発生し、住民生活に大きな影響を及ぼしました。国や県、近隣市町村、関係団体、企業、ボランティアの皆さまから多くのご支援と義援金をいただき、改めて深く感謝申し上げます。消防団員の皆さまには、危険が伴う中でのパトロールや被害拡大防止活動など、献身的なご尽力をいただき、心から敬意を表します。被災された皆さまは、現在も日常を取り戻すため前を向いて歩まれており、市としても一丸となって

下田忠浩仙北市消防団長は「自分たちの街は自分たちで守るという決意のもと、生業の繁忙の中にあっても消防業務に精進されている団員の皆さまに、深く感謝申し上げます。昨年は、住家火災により尊い命が失われる痛ましい出来事もありました。改めて、日頃から火災に備えることの重要性を胸に刻む1年となりました。また、8月の豪雨災害では、消防団が関係機関と連携し、避難支援や安否確認などに尽力され、地域防災力の真価が発揮されました。今後市民の生命と財産を守るため、消防力のさらなる強化に努めてまいります」と訓示を述べました。

式典ではこのほか、永年勤続者の表彰や消防功労者への感謝状贈呈、令和7年中に入団した新入団員が紹介されました。



下田忠浩消防団長の訓示。



式典では各章の表彰が行われました。

表彰受章者（敬称略／所属）

【有功章】

▼浦山力（第1分団）▼齋藤隆志（第5分団）▼山本茂（第7分団）▼菅原宗弘（第1分団）▼草薨氏夫（第7分団）

【永年勤続功労章（40年以上勤続）】

▼蘭藤博行（第5分団）

【永年勤続章（35年以上勤続）】

▼中村和好（第6分団）▼新山博毅（第7分団）▼佐藤一美（第5分団）▼仙波寛（第10分団）▼村上正樹（第6分団）▼田口和美（第3分団）

【永年勤続章（30年以上勤続）】

▼丹澤司（第2分団）▼池田茂男（第2分団）▼草薨賢一（第3分団）▼柴田尚紀（第1分団）▼高橋敦（第4分団）

【永年勤続章（25年以上勤続）】

▼佐藤品久（第6分団）▼千葉祐介（第1分団）▼三浦茂樹（第3分団）▼齋藤博栄（第5分団）▼草薨隆幸（第8分団）▼佐藤直也（第8分団）▼加羽博（第8分団）▼藤井満晴（第4分団）▼黒山忍（第9分団）

【永年勤続章（20年以上勤続）】

▼千葉稔（第1分団）▼佐藤登士行（第5分団）▼高村徳和（第8分団）▼羽根川裕太（第1分団）▼太田智和（第3分団）▼浅利日出男（第6分団）▼千葉信宏（第8分団）

〈仙北市長表彰〉

【永年勤続特別功労章（41年以上勤務）】

▼佐藤大（団本部）▼辻広勝（第9分団）

【功労章（26年以上勤務で階級が班長以上）】

▼大石望（第4分団）▼水平幹人（第10分団）▼糸井直紹（第10分団）▼藤村隆幸（第4分団）▼藤正輝（第5分団）▼藤川信喜（第10分団）▼戸澤敏之（第10分団）

【功績章（15年以上勤務）】

▼小西亮太（第2分団）▼田口祐司（第2分団）▼田口哲也（第2分団）▼小西晃裕（第2分団）▼古郡巧（第2分団）▼小玉広美（第10分団）▼福岡梨佳（団本部）▼中野美喜（団本部）▼辻薫（団本部）▼菊池芳明（第2分団）▼門脇博英（第6分団）▼辻渉（第9分団）▼小木田広樹（第9分団）▼藤原里史（第9分団）▼仙波賢司（第10分団）▼大澤栄太郎（第10分団）

【無火災分団】

▼第2分団（3年間無火災）▼第3分団（1年間無火災）▼第8分団（1年間無火災）

【優良分団】

▼第4分団（大仙仙北美郷支部消防訓練大会 規律訓練の部 第1位・小型ポンプ操法の部 第3位）▼第8分団（大仙仙北美郷支部

消防訓練大会 規律訓練の部 第2位）▼第5分団（大仙仙北美郷支部消防訓練大会 規律訓練の部 第3位）

【感謝状】

▼前副団長 戸村純厚 ▼前分団長 小西芳雄 ▼前分団長 佐藤豊紀

〈秋田県消防協会長表彰〉

【勤続章（10年以上勤続）】

▼川越祥太（第1分団）▼高橋佐門（第3分団）▼田中薫（第3分団）▼阿部大地（第6分団）▼門脇良太（第6分団）▼阿部峻之（第6分団）▼佐藤信一（第7分団）▼高橋清郁（第8分団）▼鈴木清人（第9分団）▼青柳光範（第9分団）▼石郷岡敏行（第9分団）

〈秋田県消防協会 大仙仙北美郷支部長表彰〉

【精勤章（7年以上勤続）】

▼藤川啓吾（第4分団）▼羽川翔斗（第1分団）▼浦山友太（第3分団）▼田口幸栄（第3分団）▼高橋吉一（第3分団）▼佐藤春美（第3分団）▼佐藤善祐（第3分団）▼今野爽馬（第4分団）▼高橋凌（第4分団）▼関谷政幸（第6分団）▼草薨明（第8分団）▼草薨紀聡（第8分団）▼相馬健（第8分団）▼佐々木貴也（第8分団）▼鈴木大祐（第9分団）▼鈴木達也（第9分団）

〈仙北市消防団長表彰〉

【精績章（3年以上勤続）】

▼田中和昭（第4分団）▼布谷優綺（第6分団）▼高橋達也（第9分団）▼鈴木優希（第9分団）▼仙波紘幸（第10分団）▼藤枝諒平（第10分団）

【優良団員】

▼大石望（第4分団）（大仙仙北美郷支部消防訓練大会 規律訓練の部 指揮者）▼藤川啓吾（第4分団）（大仙仙北美郷支部消防訓練大会 小型ポンプの部 指揮者）▼藤枝諒平（第10分団）（大仙仙北美郷支部消防訓練大会 小型ポンプの部 2番員）

令和7年度全国暴力追放功労者表彰（銅章）



▶浅利幹雄

11月21日、明治記念館で開催された令和7年全国暴力追放運動中央大会で、仙北地区暴力追放推進委員会の浅利幹雄さんが全国暴力追放功労者表彰（銅賞）を受賞しました。

浅利さんは、長年にわたり地域の安心で住みよいまちづくりのため、暴力追放活動に尽力され、暴力団などによる犯罪防止に多大な貢献をされていることを称え、警察庁長官と全国暴力追放運動推進センター会長から表彰されました。



写真左から田口市長、佐藤事務局長、小松管理者。

**秋田ふくしハートネット
文部科学大臣表彰**

12月9日、障がい者の生涯にわたる学びを支援する活動を行う個人または団体をたたえる、令和7年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰に、社会福祉法人秋田ふくしハートネットが選ばれました。同法人が運営する指定障がい福祉サービス事業所の「愛仙」「愛仙の華」では、地域住民との交流イベント「ドリームチャレンジdayへGO!」を開催。障がいのある方への理解を深めることを目的に、住民に必要とされる地域に根ざした交流活動イベント「せんぼくハートフルフェスタ」に取り組み、ともに学び、生きる価値を広めていることが評価され、表彰されました。



**一般財団法人 角館感恩講
「子ども食堂（食彩舞桜）」へ
食品・衛生用品などを寄贈**

一般財団法人角館感恩講では令和7年度子育て支援事業として、子どもの孤食の解消、居場所作りに取り組んでいる「子ども食堂（舞桜）」へ食品・衛生用品などの寄贈を行いました。

「子ども食堂」は毎月1回のペースで開催をしています。参加した子どもたちは、勉強だけでなくイベント（ビンゴ大会、餅つきなど）を通して地域の方々と交流する場所になっています。

当財団では、これからも仙北市の将来を担う子どもたちへできる限りの支援を行う予定です。

栄光・表彰 ～輝くとき～



各分野で活躍された皆さまをご紹介します



（敬称略）

第21回日台会長盃国際少年野球大会



▶優勝 横手リトルシニア 草薨連之介（生保内中2年）

12月27日から31日までの5日間、台湾（嘉義市・台中市）で第21回日台会長盃国際野球大会が開催され、代表選手として横手リトルシニア所属の草薨連之介さんが出場しました。

最終戦では、打者として3安打、投手として1回無失点と大活躍。投打二刀流としてチームを支え、チームの優勝に貢献しました。

第23回秋田県小学生インドアソフトテニス選手権大会



▶男子一部ダブルスの部 第1位 武藤小太郎（神代小6年）
▶女子一部ダブルスの部 第1位 江橋楓（西明寺小6年）

12月28日、大館市で開催された第23回秋田県小学生インドアソフトテニス選手権大会で、仙北市ソフトテニスジュニアの2人が優勝しました。

優勝した2人のほか、男子一部ダブルスの部で高橋颯太（西明寺小5年）・西宮隆生（同）ペア、江橋樹（西明寺小4年）がベスト8入りし、5人は、2月7日に宮城県仙台市で開催される東北大会への切符を手に入れました。

写真左から武藤小太郎さん、江橋楓さん。

令和7年度援護事業功労者 厚生労働大臣表彰



▶戦没者遺族援護功労 武藤啓司

12月1日、仙北市遺族連合会会長の武藤啓司さんが令和7年度援護事業功労者 厚生労働大臣表彰を受賞されました。

この表彰は、戦没者遺族などへの支援に携わり、大きく貢献された方をたたえるものです。

仙北市イクボスセミナー イクボス宣言を開催しました



12月23日、総合情報センターで仙北市イクボスセミナーが開催されました。

仙北市では、本人はもちろん、部下や同僚などの育児や介護、ワーク・ライフ・バランスなどに配慮、理解のある上司「イクボス」を市内に増やすため、企業や事業所などの経営者や管理職の方、市職員の管理職などを対象に毎年セミナーを開催しています。

当日は、講師のNPO法人ファザーリング・ジャパン東北秋田理事の林一輝氏から、市職員の管理職13人、市内事業所7人の参加者に対して「ともに働く部下・スタッフとの良好な関係構築を目指すボスに」、「生産性の高い企業を作り出すボスに」、「自らも人生を楽しむボスに」の3点についてお話しいただきました。

セミナー開催後には、イクボスになることを公に誓うイクボス宣言を行い、働きやすい職場づくりに向けた決意を新たにしました。

県南研修会で仙北市の地域学校協働活動の取組みを発表



11月27日、県教育委員会が主催する「地域学校協働活動推進員・地域連携担当者教職員等研修会」でトークセッションがあり、「仙北市のつながりを生かした取組みについて」が取り上げられました。

これは、日ごろの活動の成果を高く評価され、県南地区の教職員などに周知したいとの連絡を受け実施されたものです。

当日の発表者は、西明寺小学校長判田久樹氏、同校推進員高橋新子氏、西明寺中推進員門脇光浩氏、教育委員会担当者の相澤克彦氏、照井美久氏の5人です。発表内容のテーマが「つながり」だったので、運営協議会で出た学校課題を、地域の方々と関係機関、協働活動関係者が学校とつながって解決した事例が中心です。

西明寺小の運動会やくりっこ探検隊、西明寺中のフラワーロードの取組みを高橋氏、門脇氏が歴史を含めて詳しく説明しました。各市町村から参加した約100人の方々は熱心に耳を傾けていました。両推進員の教育や地域に対する考え方、熱意に胸を打たれたという感想があげられました。また、各校の取組みが地域とつながって進められ、子どもに力がついていることにも多くの賞賛がありました。

実戦空手道

武心会の寒稽古



1月11日、実戦空手道武心会の寒稽古が実施され、県内の各道場から多くの門下生が参加しました。

当日は、角館武道館を出発し、神明社まで走って移動。厳しい寒さの中、社殿前で行った奉納稽古では「せいっ」と気合いを込めた突きや受けなどの基本動作を繰り返して、武道に向き合う気持ちを改めて胸に刻みました。続くお祓いでは、今年1年の無事と、試合での活躍を祈願しました。

また、稽古後には餅つきも行われ、参加者同士が声を掛け合いながら杵を振る、出来立ての餅を味わいました。寒稽古で培った心身の充実とともに、交流を深めるひとときとなりました。

台湾・高雄富邦マラソン 仙北市派遣ランナーが 年代別で10位！



写真左から児森輝美さん、高橋智子さん。

1月11日、台湾高雄市内で、田沢湖マラソンと友好交流に関する覚書を締結している「高雄富邦マラソン」が開催されました。

交流事業の一環として、田沢湖マラソン参加者のうち仙北市民の上位完走者2人が、仙北市の派遣ランナーとして参加しました。フルマラソンには高橋智子さん、ハーフマラソン（21km）には児森輝美さんが出場し、2人も年代別で10位と好成績を収めました。出場したランナーからは、「台湾のランナーの皆さんとも交流ができ、とても貴重な体験をさせてもらいました」「台湾の皆さんの声援が温かく、『田沢湖、頑張れ』という声もいただきました」など、喜びの声が聞かれました。また、田口市長がスターターを務めたほか、会場内の仙北市ブースでは田沢湖マラソンの紹介や仙北市の観光PRを行い、大盛況となりました。

人権擁護委員 委嘱状と感謝状を伝達

令和8年1月1日付けで田口陽三さん（再任…田沢湖生保内）、堀井英和さん（新任…角館町川原）、高階栄子さん（新任…角館町白岩）に人権擁護委員の委嘱が法務大臣より発令され、秋田地方事務局大曲支局の佐藤伊左夫支局長から委嘱状が交付されました。

また、長年にわたり人権擁護委員としてご活躍いただいた黒澤福子さん（退任、角館町山谷川崎）、千葉悟見さん（退任、角館町園田）に同大臣より感謝状が贈られました。

地域おこし協力隊に 初めまして！ 着任しました

長村 牙樹さん

仙北市地域おこし協力隊

仙北市地域おこし協力隊として長村牙樹さんが着任し、1月5日に委嘱状が交付されました。仙北市ではこれまで11人の協力隊員を受入れ、長村さんが12人目となります。

東京都出身の長村さんは、幼少期から海外で過ごしたのち国際教養大学へ進学し、秋田県に愛着を持ち、卒業後も秋田市で地域住民の方々向けの英語教室を開くなどフリーランスで活動していました。大学在学中から地域を盛り上げる活動に取り組み、外国人留学生を含む学生と地元住民がたかく交流できる場所作りを積極的に行い、繋がりを重視したイベントの企画なども行ってきました。

また、音楽家としての一面もあり、さまざまなジャンルの楽曲を制作する中で、秋田の暮らしをテーマとした曲を作り、自身のSNSや県内外でのライブで披露されています。秋田で暮らす中で訪れた仙北市の自然や地元の方々に魅力を感じ、海外生活で培った英語力とコミュニケーション能力を地域活性化に活かしたいという思いから協力隊に応募。「仙北市にこれからのと深く関わりたい、その美しさを知っていくことが楽しみ」と語っています。

今後は協力隊として、インバウンドを含むグリーンツーリズムの推進と仙北市農山村体験推進協議会の運営サポート、地域の魅力を発信する国内外の観光窓口として着地型旅行商品の企画造成・販売などに取り組みます。



西明寺小学校 6 年生から JA 秋田おばこを通じて 寄付金をいただきました

西明寺小学校では、平成 23 年から JA 秋田おばこ農協と連携した食育事業の一環としてネギの栽培と販売を行っています。西明寺地区の佐藤一也さんの畑を借り、今年は 6 年生 19 人が指導を受けながらネギ栽培に取り組みました。児童たちが丹精込めて育てたネギは大きく成長し、仙北市産業祭で販売され、来場者から好評を得ました。

この売上金は、「市の防災に役立ててほしい」という思いから市への寄付金として活用されており、今年も 12 月 16 日に西明寺小学校で贈呈式が行われました。式では、児童代表の佐藤いろはさんと佐藤駿人さんが JA 秋田おばこ農協・佐藤正治常務理事

に売上金を手渡し、その後、佐藤常務理事から赤上副市長へと寄付金が贈呈されました。



桜の保全のための寄付金をいただきました

角館の観光行事実行委員会から令和 7 年度の角館の桜まつり期間中に実施した「桜の保全のための募金活動」による寄付金をいただきました。

寄付金は、桜の肥料や治療のための薬剤などに有効活用させていただきます。

株式会社ジーエスエフから企業版ふるさと納税

1 月 9 日、市役所角館庁舎で企業版ふるさと納税目録贈呈式が行われました。

当日の贈呈式では、仙北市が取り組んでいる「ヤマメ・サクラマスプロジェクト事業」に対し、株式会社ジーエスエフよりご寄付いただき、同社の岩東光男代表取締役社長から田口市長へ目録が手渡されました。



第4回

桜と人の営み

みなさん、こんにちは。文化財課の技師で樹木医の板橋朋洋です。角館のサクラの文化財指定50周年を記念して、広報せんぼく8月号から隔月で角館のサクラについて連載してきました。第4回の今回は最終回として、これまでの話をまとめます。

連載の第1回では、角館のサクラの歴史について紹介し、第2回、第3回では、ソメイヨシノとシダレザクラの健康状態や管理について詳しく説明しました。連載を読んでいただいた方は、どのように感じましたか？すでに知っていることも沢山あったと思いますが、昔からこの地域に住んでいても、意外と地元のことを知らないというのはよくあるもので、中には目新しいこともあったのではないのでしょうか。特に、ソメイヨシノを遺すために積極的に剪定していることや、武家屋敷のシダレザクラが直面している危機的状況については、角館のサクラに関する講演などで話をすると驚かれることが多いです。

また、地域の皆さまにとっては当たり前なことでも、周りから見れば当たり前ではないこともあります。角館は全国的な桜の名所として知られていますが、角館のサクラの特徴の1つは、人と桜の距離の近さにあります。なぜなら、全国の

桜の名所のほとんどは公園に植えられているような桜で、角館のように人の生活圏がそのまま桜の名所となっているところはほかにないからです。もちろん、文化財に指定されている桜以外にも、角館には町の至る所に桜が植えられています。昔から桜を大切に思う文化が地域に根付いていた結果でしょうか。地域の皆さまからすれば、身近なところに桜があるのは当たり前かもしれませんが、実は全国的には珍しいことなのです。

このように、昔から地域の中で桜が大事にされてきて、今の角館の春の景観が創られてきました。しかし、近年かつてない人口減少や高齢化によって社会情勢が大きく変化し、人と桜の関わり方も変化してきています。例えば、これまで庭木として管理されてきたような桜が放置されるようになったり、手に負えなくなったことで伐採されることも増えていきます。地域の方に昔の話を聞くと、自分が子どもの頃はよく桜の木に登って遊んでいたとか、桜に関するエピソードを聞くことがあります。最近子どもが外で遊ぶ機会も減っているといわれています。おそらく、桜と人との日常的な営みや関心自体も減少しているのではないのでしょうか？

それでもやはり、春になり暖かくなれば、桜の開花を今か今かと待ちわびるような、町全体が浮き立つ雰囲気を感じます。桜のお花見は、紫式部の源氏物語（1008年）でも表現されているので、1000年以上日本人の心の中で

脈々と受け継がれてきた文化です。それだけ、日本人にとって桜のお花見は春の風物詩として欠かせないのです。この角館という町でこれから先も春に美しい桜花を楽しむために、地元の桜に対して関心をもって、できる範囲で剪定をしたり肥料を入れたり、日常的な営みを大切にしていきたいと思えます。今回の連載は、市民の皆さまに、桜について知ってもらうこと、関心をもってもらうことが大きな目的でした。スペースの都合もあるので、説明不足だったり、わかりにくいこともあったと思います。もし気になることやもっと知りたいことがあれば、文化財課（☎0187・43・3384）までお気軽にご相談ください。

参考文献：

「サクラの文化誌」

コンスタンス・レカーカー、メアリー・

ニューマン（著）

富原まさ江（訳）原書房



仙北市文化財課
樹木医 板橋朋洋

宮城県仙台市出身。
角館の桜の保存管理業務などを担当。